

標本の見方と用語

一枚の切片標本では、標本内に含まれる健常部と絶えず比較しながら、表面の角層から順に深部の皮下脂肪組織へと検鏡し、主病変の存在部位を中心に、以下のような用語（組織学的所見）を用いて記述する。

a. 表皮角層 horny layer

1) 角質肥厚（角質増殖，過角化） hyperkeratosis

正常部に比べて角質の厚さが増加した状態をいう。角質の厚さは部位によって異なり，手掌・足底では厚く四肢屈側では比較的薄い。汗孔や毛孔に角質のつまる角栓（keratotic plugs）形成をみることも，判断の一助となる。

〔例〕：乾癬，扁平苔癬，ヴィダール苔癬，表皮内癌など

2) 不全角化（錯角化） parakeratosis

角層中には扁平な濃縮核の残存するものをいい，角化過程が異常に促進された状態で，表皮顆粒層は菲薄化する。

〔例〕：乾癬

3) 水疱 bulla, 膿疱 pustule

角層内，角層下に組織液や浸潤細胞が貯留して形成される。Munro 微小膿瘍 Munro's microabscessは，多核白血球が集合する状態で乾癬においてみられ，診断的価値が高い。

4) その他

表皮角層内に虫体（ヒト疥癬虫，毛包虫）や，真菌（カンジダ，白癬菌，癬風菌），出血（ヘモジデリン），色素（メラニン）をみることがある。経上皮性排除現象 transepithelial eliminationは真皮上層の変性した弾力線維や膠原線維，カルシウムなどが経表皮性，経毛包性に排除される過程をいう。

b. 表皮顆粒層 granular layer

1) 顆粒層肥厚 hypergranulosis

顆粒層の厚さの増加をいう。顆粒層は通常，表皮の厚さに比例して1ないし3層である。

〔例〕：扁平苔癬

2) 顆粒層萎縮・消失 hypogranulosis

顆粒細胞の減少・消失，および顆粒層の厚さの減少をいう。不全角化のさいにみられる。

3) 変性 degeneration

細胞内浮腫による空胞変性 vacuolar degeneration

〔例〕：疣贅

胞体内にケラトヒアリン顆粒の集塊をみる顆粒変性 granular degeneration

〔例〕：水疱型魚鱗癬様紅皮症

4) Kogoj 海綿状膿疱 Kogoj's spongiform pustule

角層下に多核白血球が集合した膿疱で，膿疱内の表皮細胞は細胞内浮腫により網状構造をみるが，海綿状態とは異なる。膿疱性乾癬，角層下膿疱症，疱疹状膿痂疹，ライター病などでみられる。

c. 表皮有棘層 prickle cell layer

1) 表皮肥厚（棘細胞増殖）acanthosis

表皮細胞数の増加による表皮網状突起の肥大と延長の結果、表皮の厚さの増加した状態をいう。細胞数の増加がなく、個々の表皮細胞の肥大により全体として表皮肥厚をみる場合、仮性表皮肥厚 pseudoacanthosis とよぶことがある（扁平苔癬）。表皮の一部が深部へ向かって不規則・侵襲性に増殖し、一見、有棘細胞癌に似るが細胞異型性を欠き、反応性（または偽癌性）増殖を示すと考えられる場合、偽上皮腫性過形成 pseudoepitheliomatous (or pseudocarcinomatous) hyperplasia と呼ぶ。また有棘細胞の増殖によりなる腫瘍を有棘細胞腫 acanthoma と総称することがある。

2) 萎縮 atrophy

表皮細胞数の減少により表皮の厚さの減少した状態をいい、表皮網状突起が短縮して表皮は扁平化する。

3) 変性 degeneration

表皮細胞の変性、異常角化（異角化）dyskeratosis などがある。異常角化とは有棘細胞が角層に達する以前に、個々に角化した状態（individual cell keratinization）で、細胞質は好酸性で核は残存する。周囲の有棘細胞との間には棘融解をきたし、細胞は球状となる。ダリエー病、ポーエン病、有棘細胞癌などにみられる。

4) 海綿状態 spongiosis

表皮内に炎症が生じると細胞間浮腫（海綿状態）が起こる。とくに好酸球の浸潤を伴う細胞間浮腫の状態を、好酸球性海綿状態 eosinophilic spongiosis といい水疱性類天疱瘡や疱疹状天疱瘡でみられる。

5) 水疱 bulla

有棘細胞間の浮腫性離開により、細胞間橋が明瞭となった状態が細胞間浮腫（海綿状態）で、水分貯留が増加して有棘細胞間に単房性水疱を形成したものを、海綿状水疱 spongiotic bulla という。

〔例〕：湿疹

有棘細胞の液状変性により、細胞が膨化して淡染する状態を細胞内浮腫といい、浮腫の増強により細胞膜が破れ、残存する細胞膜で隔てられた大小種々の多房性水疱を、網状変性 reticular degeneration という。

〔例〕：ウイルス性水疱

有棘細胞の細胞間橋が消失し、相互に離開して表皮内に水疱を形成する状態を、棘融解性水疱 acantholytic bulla という。

〔例〕：天疱瘡、ダリエー病

6) 膿疱 pustule

水疱内容の膿性（多核白血球主体）であった場合は膿疱と呼ばれる。表皮内膿疱の比較的小さいものを微小膿疱と呼び、特に表皮の下層で、真皮に接して形成されることの多い小水疱で、異型リンパ球や息肉症細胞をいれるものを Pautrier 微小膿瘍 Pautrier's microabscess という。

d. 表皮基底層 basal cell layer

1) 液状変性 liquefaction degeneration

基底細胞が浮腫・変性により消失し、真皮との間が融解するもの。しばしば組織学的色素失調を伴い、高度のときには表皮下裂隙、さらに表皮下水疱を生じる。

〔例〕：エリテマトーデス，リール黒皮症など

2) 表皮下水疱 subepidermal bulla

表皮と真皮の接合部の融解による水疱で，水疱底部に表皮細胞を欠くが，古くなると底部に表皮が再生して表皮内水疱となる。

〔例〕：水疱性類天疱瘡，疱疹状皮膚炎，栄養障害型表皮水疱症など

3) 色素増加 hypermelanosis

表皮メラノサイトの増数や，メラニン転送障害によるメラニン色素の増強をいう。

4) 色素減少 hypomelanosis

表皮メラノサイトの減少や，メラニン産生障害によるメラニン色素の減少をいう。

e. 真皮乳頭層 dermal papillae

1) 乳頭腫症 papillomatosis

真皮乳頭が表面へ突出し，表皮全体として凹凸を示す状態をいう。

2) 組織学的色素失調 histological pigment incontinence

表皮基底細胞の液状変性により，メラニン色素が真皮内に移行し，組織球（メラノファージ）に貧食された状態をいう。

〔例〕：扁平苔癬，リール黒皮症，エリテマトーデスなど

f. 真皮網状層 reticular dermis

1) 炎症性細胞浸潤

①表皮下帯状細胞浸潤 subepidermal band-like cell infiltration: 真皮乳頭, 真皮上層に帯状に炎症細胞浸潤のみられる状態。

〔例〕: 扁平苔癬, リール黒皮症。

②斑状細胞浸潤 patchy cell infiltration: 血管周囲性, 毛包周囲性に炎症性細胞浸潤が巣状にみられる状態。

〔例〕: 円板状エリテマトーデス。

③肉芽腫性細胞浸潤 granulomatous cell infiltration: 単核球, 類上皮細胞, 多核巨細胞などを混じる慢性の細胞増殖性病変で, 血管増生, 結合組織増殖を伴う。

肉芽腫には類上皮細胞 epithelioid cell を主体とするもの (epithelioid cell granuloma) や肉芽腫の中心部に膠原線維の変性と, これを取り囲むように, 細胞浸潤がみられる類壊死性肉芽腫 necrobiotic granuloma, 種々の無機・有機物質あるいは自己成分 (角質) などに対する異物肉芽腫 foreign body granuloma, 多核白血球の浸潤を主とする膿瘍性肉芽腫 (suppurative granuloma), 幼若膠原線維や組織球よりなる組織球性肉芽腫などがある。

2) その他

①変性 degeneration, 沈着 deposition: 真皮の膠原線維, 弾力線維, 間質の変化には次のものがあげられる。

壊死, フィブリノイド変性, 好塩基性変性, ヒアリン化 (均質化), 石灰化およびアミロイド, コロイド, 粘液, 脂質, ヘモジデリン, 異物などの沈着。

②線維化 fibrosis: 線維芽細胞の増殖に伴う膠原線維の増生をいう。

③萎縮 atrophy: 膠原線維, 弾力線維, 間質の変性とその減少・消失をいう。

g. 皮下脂肪組織 subcutaneous fatty tissue

1) 脂肪織炎 panniculitis

脂肪組織, 脂肪細胞の変性, 壊死を中心とした炎症性細胞浸潤。

2) 萎縮 atrophy

皮下脂肪組織の減少・消失をいう。

h. 表皮付属器 epidermal appendage

毛包, 脂腺, アポクリン汗腺, エクリン汗腺は体表の各部位により分布や形態が異なる。それぞれについて炎症性細胞浸潤, 萎縮・増殖などが所見となる。